

# 遺品整理士 資格取得者が急増

## 去年の県内 新たに48人、計80人超に

### 高齢化や空き家増え

県内で遺品整理の代行業者を利用する人が増えているのに伴い、業界団体が付与する資格「遺品整理士」を取得する人が急増している。昨年は48人が取得して保持者は83人となった。請負件数が前年比で10倍となった業者もある。高齢化が進み、空き家も増加する中、業界団体の「お墨付き」を得て信頼を得る狙いがある。



長い間、空き家になっていた住宅で業務に当たる遺品整理業者 一富山市内

### 受注10倍も 「信頼を」

遺品整理士認定協会(北海道千歳市)によると、同整理士の資格を得るには協会発行のテキストなどで依頼者への対応方法と、遺品を適切に処分できるような廃棄物処理法などの法律を学び、試験に合格する必要がある。取得までに平均5、6カ月を要するという。

協会によると、全国で遺品整理士の資格を持つ人は現在約6200人。昨年1年間で約2500人増えた。半面、遺品整理を請け負う全国の事業所約7千社のうち、資格保持者が勤務する事業所は3割にとどまり、不法投棄や追加料金をめぐるトラブルが増えている。

2012年に開業した富山遺品整理本舗(富山市)の代表で遺品整理士の資格を持つ三國健司さん(41)は「資格を持つことによって依頼者は安心してくれる」と語る。同社では12、13年は年間請負件数が10件前後だったが、昨年は約110件に急増した。うち7割は県外在住者の依頼で、内容は1室単位から一軒家まで

幅広い。一人暮らしの高齢者が亡くなった後、住宅を片付けるケースも多い。整理後に遺族が希望すれば空き家の管理も担う。現在は空き家約20戸を定期的に回って風を通し、水回りに不具合がないか確認しているという。

県によると、県内の65歳以上の単身世帯数は10年10月現在で約3万1400世帯。核家族化や福祉施設への入所が進むことで空き家も増加しており、13年7月現在で約5万6200戸を数える。